

基礎・境界 ソサイエティ

# ニュース レター

September 2003 No.46



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

## 目次

- 平成 15 年度基礎・境界ソサイエティ会長挨拶 < 仙石正和 (新潟大学)> ..... 2
- 第 16 回 回路とシステム (軽井沢) ワークショップ 報告  
< 太田淳 (愛知県立大学)> ..... 3
- 訂正とお詫び ..... 4

# ソサイエティ会長に就任して

仙石正和 (新潟大学)



中川正雄会長の後を受けて、平成 15 年度のソサイエティ会長を務めさせていただくことになりました仙石正和です。浅学非才ですがよろしくお願ひいたします。

電子情報通信学会のカバーする領域は、文字通り、エレクトロニクス（電子）、インフォメーション（情報）、コミュニケーション（通信）という、広い分野です。学会の成り立ちからは、「通信」がその中心であることは、皆さんご存知のことと思います。ところが、通信を支える科学技術はエレクトロニクス（電子）、インフォメーション（情報）が一番関わりが大きいですが、場合によっては人文社会科学にも関わるかなりの広がりを持っており、また、技術が進めば進むだけその深さも増しています。本ソサイエティの基礎境界ソサイエティはその中でも、伝統ある電子、情報、通信分野の基礎を支え、また、新たな分野の創生（新分野開拓）を期待されているソサイエティです。電子情報通信学会に關係する IEEE を調べてみますと、IEEE にあって、電子情報通信学会にない分野（明らかに電気工学、エネルギー関係、放送、コンピュータ関係など、日本の例えば電気学会、情報処理学会などに密接に関わる分野は除く）を調べますと、

以下のような分野（IEEE のソサイエティ）がありました。

Electronics Packaging Manufacturing

NanoBioscience

Engineering Management

その他

これらの他、人文社会科学系の芸術、文化などとの関わった分野などは、新分野として興味のあるものと思います。学会の役割はなんと言っても、独創的研究の発表の場を提供することです。本学会の起源は明治 44 年という古いものです。ソサイエティ制は、平成 7 年からで、今年で 8 年目になります。制度疲労は起こしていないでしょうか。すなわち、独創性のある研究論文を出版する環境を常に整え、若い会員の加入も継続する魅力あるものになっているでしょうか。研究会活動がマンネリ化することはなく、研究会に新しい参加者（新人）が増えているでしょうか。など点検をする必要があると思います。伊賀健一会長は会長就任挨拶のなかで、ソサイエティ制の柔軟な改廃の可能性も示唆しておられます。研究会の新設と同時に改廃も検討する時期が来ているかもしれません（西原ソサイエティ副会長もこのことは運営委員会で提起されました。）総合大会、ソサイエティ大会、研究会または關係する国際会議などで、会員の研究者の方々とお会いして、研究などの情報交換するときは、緊張感と同時に何ともいえない楽しいひとときです。この楽しさも、学会に加入してよかったと思うときです。この楽しさを若い多くの方々に伝えていくことも大切なことと考えています。

川北前々会長、中川前会長のもとで、継続して活性化委員会などで種々検討をしながら、活性化が図られてきました。これまでの諸先輩が出されてきた成果をさらに発展すべく努力する所存ですので、御指導御鞭撻をよろしくお願ひいたします。

## 第16回 回路とシステム(軽井沢)ワークショップ 報告

実行委員長 太田 淳 (愛知県立大)

1988年5月、学会活動活性化の一環として開催された軽井沢回路とシステムワークショップも、第16回を迎えることになりました。以下に、感想を交えながら、ワークショップについて報告します。

今回の回路とシステム(軽井沢)ワークショップは、2003年4月27日、28日の二日間にわたり開催されました。日程が例年と変わったこと、論文投稿が前2回に比べて減少したこともあって、参加人数がどうなるか事務局一同気をもんでおりましたが、過去最高の262人の方にご参加をいただき、ほっと胸をなでおろしております。場所については、例年通り、軽井沢プリンスホテル西館国際会議場にて開催致しました。今回は例年に比べて会期が1週間遅れて、ゴールデンウィーク直前の開催となったことでアウトレットモールをはじめとする行楽地としての華やかさがとくに目立つ会場

となりました。このような時期に例年と同じ条件で会場を提供していただいたホテル側のスタッフに感謝しております。今回のワークショップでは、77件の論文投稿があり、76件を一般講演として採録致しました。これに加えて、特別招待講演1件、招待講演14件を企画し、多彩な内容となりました。特別招待講演には、本ワークショップの創設にも多大なご尽力をいただきました大阪大学の白川功先生をお招きして「産学連携は今後どうあるべきか」との題で講演いただきました。ご自身が永年関わってこられた半導体設計会社での経験を基にして、興味深いお話をいただきました。産学交流は本ワークショップの目的の一つであり、この点でも意義深い講演だったと思います。また、萎縮しがちな現在の日本の産業界・学界へのエールをいただいたことが特に印象的でした。

(次頁へ)



特別招待講演(大阪大学 白川 功先生)

(前頁から)

招待講演では、昨年運用を開始した「地球シミュレータ」や「ユビキタス技術」に関するいくつかのセッションなど、現在注目されている分野、重要とされている分野に関する質の高い講演をいただくことができました。この他、前回に引き続き、注目度の高いテーマを重点テーマとして取り上げ、集中して聴講・討議できるように、関連した講演を集めた特別セッションを設けました。今回は、「非線形デジタル信号処理」「ハイブリッドダイナミカルシステム」「シグナルインテグリティ」「システムレベル検証/評価/見積もり」の4つのテーマを重点テーマとして取り上げました。

また、事務手続きの効率化および論文情報の電子

化を目指して、前回ワークショップから構築をすすめてきました、論文投稿・査読およびワークショップ参加、実行委員会運営の Web システムがほぼ完成いたしました。ほとんどボランティアに近い費用で、構築にご尽力いただいた関係者諸氏に厚く御礼申し上げます。

なお、本ワークショップで発表された成果を対象として、別途論文募集・査読を実施し、電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ英文論文誌 (IEICE Trans. On Fundamentals) 小特集号を 2004 年 4 月に発行する予定です。是非ご覧下さい。

最後になりますが、開催にあたり多大なるご尽力を頂きました関係者各位に、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

---

訂正とお詫び：

ニューズレター No.45 に掲載された平成 14 年度総合大会 基礎境界ソサイエティ特別企画フェロー記念講演会報告に関し、「失敗研究で得たもの失ったもの」に関連した内容は、阪田先生の講演の内容ではなく、田中先生の講演内容です。関係各位に深くお詫び致します。

ニューズレター編集部

本号からニューズレターの編集を担当します岐阜大学の金子です。至らぬ点多々あるかと思いますが、どうぞよろしく願います。基礎・境界ソサイエティの更なる発展のため、読者の皆様からのお知恵を拝借できれば幸いです。

基礎・境界ソサイエティホームページ <http://www.ieice.or.jp/ess/ESS/index-j.html> では、研究会、国際会議、論文募集案内等、様々な情報を発信しております。どうぞご利用下さい。